

〔講師紹介〕

第3回全通研学校Ⅱ「通訳理論(手話通訳理論)」《東海会場》

2008年7月12日(土)～13(日) 愛知県社会福祉会館

(〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-4-7 TEL 052-232-1181)

「手話通訳の制度と政策」

金城学院大学教授 林 智樹 氏

<講師プロフィール>

京都市聴覚言語障害センター職員、三重短期大学教員を経て、現在は金城学院大学現代文化学部福祉社会学科に所属。専門科目として障害者福祉論、手話通訳論、社会福祉現場実習指導を担当。

日本手話通訳士協会理事として国際交流を担当。2006年度より日本手話通訳士協会愛知県支部支部長。全日ろう連福祉対策プロジェクトチーム、「コミュニケーション支援再事業構築」委員会等に参加。全国手話研修センターの研修事業へ委員や講師として参加。また、全通研事務局員として2000年から2004年の間国際交流を担当し、世界手話通訳者会議(2002年ワシントンDC会議、2003年モントリオール会議)に参加、WASLI結成過程に関わっています。健康対策部員として1995年より手話通訳者の全国調査に参加しています。

講師からのメッセージ「制度を歴史的に振り返りながら、現状分析を行いたいと思います。これを踏まえて、参加者の方々と一緒に手話通訳の法制度のあり方を考えていきたいと思います。」



「手話通訳技術」

日本手話通訳士協会 会長 小椋 英子 氏

<講師プロフィール>

2003年5月から日本手話通訳士協会会長の務める傍ら、みなさんご存知の「NHKみんなの手話」の講師を2007年4月から担当されています。また、山梨県聴覚障害者情報センターの職員として聴覚障害者就労支援ワーカーとして日々活躍されています。

講師からのメッセージ「手話関係者は常に真面目で学習意欲が旺盛です。この学習意欲があることはわたしたちの誇りとすべき面です。通訳理論は私たちにとって重要な基礎となる学習です。礎だからこそ何回も繰り返し学ぶことが必要だと思いますし、繰り返し学ぶ中で見えてくるものも多いのです。「以前に学んだから」「いつも同じテーマで学習しているから」と思わずに、一回一回の学ぶ機会に新鮮な気持ちで臨み、共に考えましょう。」



「手話通訳運動と労働」

全国手話通訳問題研究会 運営委員長 市川恵美子 氏

<講師プロフィール>

学生時代の1970年に「東京都手話奉仕員養成講習会」を第1期生として修了。その後、1980年に「全国手話通訳問題研究会東京支部」を設立、支部長となる。2000年「東京都手話通訳派遣協会」事務所に就任。そして、2004年より全国手話通訳問題研究会運営委員長に就任、現在にいたります。

これまでの豊富な手話通訳経験と手話通訳運動を踏まえ、今回「手話通訳と労働」について講義いただきます。

講師からのメッセージ「手話は楽しく学ぶことが基本ですが、世の中には楽しくないこともたくさんあります。楽しくないことはどこに起因しているのかをさぐることで、問題解決につながります。全通研学校はそれを皆で学ぶ学校です。皆が楽しく、生き生き暮らせる社会をつくるために。」



申込先:各全通研支部

申込締切り 2008年 6月 6日(金)